

| | | | | |
|--------|--|-----------------------------|-----------|--------------------------|
| 学校教育目標 | 「自ら学び 社会とつながり ともに未来を創る人」 | | | |
| | ヒ 一人ひとりの個性を伸ばします (徳) ガ 学習の基礎基本の定着を図ります (知) カ 課題を解決する力を向上させます (知) モ モチベーション(意欲)をもって創造していく力を向上させます (体) ト 共に生きる心とコミュニケーションの力を向上させます (公・開) | | | |
| 学校概要 | 創立 39 周年 | 学校長 吉原 史朗 | 副校長 松木 康将 | 2 学期制 一般学級: 12 個別支援学級: 3 |
| | 児童生徒数: 418 人 | 主な関係校: 鴨居小学校・東本郷小学校・菅田の丘小学校 | | |

| 教育課程全体で 育成を目指す資質・能力 | 東鴨居中 ブロック | 小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組 |
|--|---------------------------|---|
| <協働して課題解決する力> <言語活用・コミュニケーション力> <持続可能な社会の創造に貢献する力> | 東鴨居中学校 鴨居小学校 東本郷小学校 | 多様性を認め合い、協働して課題解決を進め、自らの生き方を創造する子ども ○ 対話と協働を重視した授業転換による学びの深化と主体性の育成 ○ 教員の専門性向上と児童・生徒のインクルーシブな学びの実現 ○ 地域社会との連携による学びの拡張と児童・生徒の自己肯定感の醸成 |

| |
|--|
| 中期取組目標 小中・家庭・地域と連携し、生徒と教職員が力を合わせて、「当たり前」の事を「当たり前」にできる学校を目指します。 ○確かな学力を身に付け、夢、希望、目標をもち、自立して生きていく生徒を育てます。(知)→自分を律し、高め合える生徒 ○人を思いやる優しさと豊かな感性を磨ける活動に取り組みます。(徳)→相手の思いを受け止め、仲間や学校の伝統を大切にできる生徒 ○一人ひとりの個性を大切に、心と体の健康を意識し生き生きと生活する生徒を育てます。(体)→自尊感情をもった生徒 ○人とのコミュニケーションを通して、グローバルな視点をもった地域社会に貢献できる生徒を育てます。(公・開)→あいさつができる生徒 |
|--|

| 重点取組分野 | 具体的取組 |
|------------------------------------|---|
| 知 生きてはたらく知 担当 学習指導部 | 生徒の「じっくり考え 高め合い 次につなげる確かな学び」を実現するために、学方向上アクションプランに基づいて、授業改善を行う。 ①学習したことを、ふだんの生活の中で、生かして使おうと考えられるようにする。 ②自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表できるようにする。 ③学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができるようにする。 |
| 徳 豊かな心 担当 学習指導部 | 「学び合い」を通して、自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性を育てる。 ①人が困っているときは、進んで助けることができるようにする。 ②自分と違う意見について考えるのは楽しいと感じられるようにする。 ③相手の立場になって、その人の気持ちを考えることができるようにする。 ④人とコミュニケーションをとることは楽しいと感じられるようにする。 |
| 体 健やかな体 担当 保健安全指導部・保健体育科 | 「横浜市「健やかな体」育成プログラム」に沿って、家庭と協力しながら体力向上を目指す。 「健やかな体の育成プラン」の推進。学校保健委員会の活動の活性化。体力・運動能力調査の結果を積極的に公表、活用する。①健康三原則「運動:週に420分以上」、「食事:毎日朝食」、「睡眠:睡眠時間8時間以上」を徹底することの大切さを理解できるようにする。②保健体育科の授業で目標を示す、学んだ内容を振り返る活動を行う。③テレビ、スマートフォン、パソコン等による映像の視聴時間が及ぼす害について理解できるようにする。 |
| 公 地域連携・学校運営協議会 担当 生活指導 | 保護者・地域のサポートを生かし、開かれた学校づくりに努めるとともに、学校運営協議会の活性化を図る。 ①地域の行事(お祭り、スポーツ大会、防災訓練、ボランティア活動など)に参加している。 ②地域や社会をよくするために何をすべきかを考えている。 ③学校HPを毎週更新し、家の人が生徒と学校での出来事について話す話題を提供する。 |
| いじめへの対応 担当 生活指導 | 「学校いじめ防止基本方針」に沿って、いじめの未然防止、いじめの早期発見、いじめに対する措置、いじめの解消を行う。 ①YPアセスメントを年間2回実施し、集団の実態を把握する。 ②「学校いじめ防止対策委員会」を常設し、月1回以上、定期的に開催する。 ③年間3回以上の生活アンケート及び教育相談を実施する。 ④いじめは、どんな理由があってもいけないということを理解できるようにする。 |
| 人材育成・組織運営(働き方) 担当 主任会 | 教職員が、自らのキャリアについて将来展望をもち、身に付けるべき能力を自覚し、職務遂行等を通じて積極的に能力開発を行うとともに、組織的課題解決ができる人材の育成を行う。 ①「チームヒガカモ」を組織し、経験・教科・分掌等の垣根を超えた意見交換で、教職員のレベルアップを行う。②自己観察書の自己目標設定面談や中間期の振り返り面談、観察指導記録開示面談等を通して、教職員一人ひとりがキャリアステージや将来のキャリア展望に向けて適切に目標を設定し、振り返りを行い、業務改善に取り組めるようにする。③教職員が、効率的に業務を遂行するために、問題解決手法についての研修を実施し、日々の業務に生かせるようにする。 |
| 教育課程 担当 各学年 | 教育活動のねらいを明確にし、ねらいを達成するためにPDCAサイクルをしっかりとスパイラルアップさせる。 ①小中一貫して「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、講師を招聘し、各教科・領域の小中合同授業研究会を実施する。 ②学校行事等において生徒アンケートを行い、ねらいの達成度や改善点等について振り返りを行い、より良い活動の実施に繋げる。 ③道徳の授業、戦争についての講話、人権講演会、修学旅行に向けた学習や旅行先での学習等を通して、平和への理解を更に深め、自分たちの生活と結びつけて、平和の実現に向けて継続的に考えるようにする。 |
| 特別支援教育 担当 特別支援委員会 | 学び合う中から一人ひとりの違いを認め合い、支え合う中で豊かな心を育て、様々な人々が生き生きと活躍できる共生社会を築き、その社会で生きる子どもを育成する。①教職員グループウェアを活用し、情報交換、全体共有を行ない、個々の生徒に応じた支援を行う。②オンライン学習教材「すらら」を活用し、生徒の実態に応じた学習サポートを行う。③個別の指導計画・支援計画、問題解決型ケース会議を活用し、生徒の学校での適応状況改善を行う。④生徒が学校は安心できる場所だと感じられるようにする。⑤自分のことが好きだと感じられるようにする。 |
| 生徒指導 担当 生活指導 | 一人ひとりの生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動を行う。 ①自分にはよいところがあると感じられるようにする。②挨拶を自分からすることの大切さを理解できるようにする。③人とコミュニケーションをとることが楽しいと感じられるようにする。④友達のしたことや言ったことに対して、なぜそれをしたり言ったりするのか理解できるようにする。④普段の生活の中で、幸せな気持ちになれるようにする。 |
| 進路指導 担当 各学年 | 生徒が自らの生き方を考え、将来に対する目的意識をもち、自分の意志と責任で進路を選択・決定する能力・態度を身に付けることができるよう、教育活動全体を通じ指導・援助する。 ①将来の夢や目標をもてるようにする。②学習を通して見つけた地域や社会の課題を、自分たちで解決できると考えるようにする。③『横浜の時間』では、地域の人と関わり合いながら、よりよい地域や社会を目指して活動している。④人の役に立つ人間になりたいと感じられるようにする。 |